

予算・決算特別 委員会審議概要

可決

2月20日に上程された「令和6年度愛荘町一般会計予算」は、予算・決算特別委員会に付託され、3月14日、15日に審議が行われた。反対討論が1件、賛成討論が1件で賛成多数で原案のとおり可決した。

ごみカレンダー改善



新しくなったごみカレンダー

Q ごみカレンダーの仕様変更について何をポイントとしたのか。4月以降も住民の声を聞き、改善することも可能であるのか。

A 令和6年度版はアンケート等実施し、文字を大きく改善した。令和6年度以降も、さらに住民アンケートを実施し、すべての世代に優しい仕様とする。

地域とのつながりを大切に

Q 地域おこし協力隊事業の検証はどのようにしているのか。

A 国の地域おこし協力隊の制度を活用し実施している。移住してきた協力隊が住民を巻き込み起業に取り組みながら、町の情報を発信している。また、協力隊が持つ独自のスキルを活かして町内の人材を育てる事業を進めており、少しずつ形になってきたところである。

Q 新規就農者の育成に関連する補助金交付事業があるが、横のつながりによる仲間づくりも必要と考えるがどうか。

A JAにおいて担い手同士のつながりを深める取り組みをされている。町としても農遊倶楽部等を活用しつながりの強化に努めたい。

基金の減少 適切な財政運営を

Q 財政調整基金の令和4年度末残高は22億円であった。新年度も取り崩す予算編成となっており、令和6年度末残高が10億円の見込みとなっている。財政運営上問題ないのか。また、合併振興基金を活用している事業や活用期限はあるのか。

A 今までは基金を取り崩さなくても予算を組んでいたが、令和4年度は9,500万円を取り崩した。令和6年度は歳入歳出のバランスにより取り崩したい。危機的な状況に陥らないように、歳入と歳出のバランスを考えながら財政運営をしていきたい。合併振興基金を活用できるのはソフト事業に限られている。給食管理運営事業と街道交流館運営費に活用している。基金残高が減少していくので、その間に歳出を削減していかなければならない。

保育士不足の抜本的な対応を

Q 保育士等の不足により子どもや保護者へ与える影響は大きい。人材を確保するための方策として人材派遣を活用しているが、人材を確保するためには雇用に係る町独自の対策が必要ではないか。

A 職員を募集しているが、応募がないため派遣を利用することにした。まずは賃金の設定、それ以外に派遣業者への報酬も加味しながらやっている。人材派遣や職員採用も含め、町で働きたいという方と勤務条件を調整しながら進めている。



保育士不足が深刻な、つくし保育園

役場窓口受付や学校でのデジタル化

Q デジタル化推進事業の取り組みとして実施している「書かない窓口」の具体的な内容は。

A 住民課の窓口業務である、転入、転出、転居、印鑑証明、各種諸証明の発行について、手書きで申請していたものを、職員が聞き取り直接システム入力する仕組みである。今後、すべての業務に拡大していく予定である。

Q 学校ICTを導入することで、教職員と子どもたちのコミュニケーション不足を危惧する。どのような環境を作ろうとしているのか。

A ICTを活用し教職員の事務処理を効率化させ、子どもたちへの支援などを考える時間を充実させる。従来からのやり方とのバランスを図りながら学校運営を行っていく。

空き家調査

Q 特定空家等実態調査業務の事業内容や空き家の状況は。

A 県建築士会に委託し、空き家の危険度判定現地調査を実施するもの。現在の空き家の状況は、19自治会から43件の空き家の報告をいただき、そのうち、樹木除去や何らかの改善が15件、自主解体が5件となっている。

給食センター厨房機器更新

Q 給食センター厨房機器の更新は、高額であり工事も夏休みなどの長期休暇にしか実施できない。物価高騰で金額が上がるので、早期の更新が必要ではないか。

A 給食センターは竣工して13年、部品の供給が15年ということを踏まえて、夏休みなどの長期休暇に修繕実施しなければならない。できるだけ早く実施していきたい。